

日本版Fit Noteの進捗について

産業医科大学
公衆衛生学教室
松田晋哉

平成27年度の主な活動

- 医師会を対象とした研修
 - 平成27年6月3日 葛飾区医師会 研修会
- 経営者・保険者・行政を対象としたセミナー
 - 協会けんぽ
 - 経団連
 - 財界・省庁若手勉強会

平成27年度の主な活動

- 医師会を対象とした研修
 - 平成27年6月3日 葛飾区医師会 研修会
- 経営者・保険者・行政を対象としたセミナー
 - 協会けんぽ
 - 経団連
 - 財界・省庁若手勉強会

症例1

- 37歳男性、銀行勤務
- 35歳の時、両手指の痛みと腫れで近医（整形外科）受診。鎮痛剤と湿布等の対症療法で経過観察するも症状の改善がないため、血液検査を行ったところRAを疑われ、大学病院のリウマチ科を受診。RAと診断され、メトレート6mg/週 セレコックス400mg/日 フォリアミン5mg/週で現在加療中。
- 現在の検査値等
 - ANA:80、CRP:0.36、RF:30、MMP-3:5
 - 画像診断：単純X写真では明確ではないが、MRIでは微小な骨びらんが局所に観察される。

症例1（続き1）

- 仕事の関係でパソコン入力をすることがある。タッチの軽いキーボードを使うことで指への負担を軽減している。また、タッチペンを使うなどの工夫もしている。しかしながら、痛みや熱感などの症状が強いときはPC操作だけでなく、手指を使うすべてのことが困難になる。
- 現在のような状況で、今後仕事を続けていくことができるのか不安がある。生物製剤を使うことで症状が劇的に改善すると聞いたことがあるが、そのような治療を受けるべきか悩んでいる。

症例1（続き2）

- 現在の職務内容は以下の通り
 - 銀行の融資担当
 - 取引先企業に車で訪問することもある
 - 報告書作成などの事務作業が多い
 - 勤務時間： 8時半～17時半（実際は残業が多く21時を超えることが常態化。土日は基本的に休み
- 仕事に関する本人の希望
 - 仕事はいきがいの一つになっている。
 - 子供2人がまだ高校生と中学生であり、経済的にしっかりしたい。
 - 出来れば専門性をいかせる現在の仕事を続けたい。
 - 定年（60歳）まで勤め上げることが目標。退職後は中小企業診断士の資格を活かして独立したい。

症例2

- 44歳女性、銀行勤務（窓口業務）、独身（70代の両親と同居）
- 平成〇年×月、腰痛がひどいため、近医（整形外科）受診。湿布や温熱療法、鎮痛剤で対処していたが一向に軽減しないため、大学病院外来受診。CT検査で膵尾～膵体部に腫瘍を認める。また、肝内にも多数のSOLが認められ、膵癌の肝転移症例であると診断された。さらに下大静脈にも浸潤していることがその後の画像検査で確認され、手術適応のないことが明らかとなった。

症例2(続き1)

- 緊急入院となり、ゲムシタビンによる化学療法を開始するも著効なく、3クール行ったところでS-1製剤の内服療法となる。疼痛管理のために鎖骨下にポートを設置し、退院となる。
- 退院後は週に1回の大学病院外来受診を行い継続的な化学療法(S-1経口)と経過観察を行っている。
- 療養上の注意点
 - 治癒の見込みがないことに対する強い不安と絶望感
 - 化学療法に伴う体力の低下と感覚障害
 - 癌に由来する痛み
 - 厳しい生命予後(1年程度か?)
 - ただし、現時点では勤務をすることは可能
 - 今後黄疸出現に伴う強い倦怠感に注意

症例2(続き2)

- 入院前の職務内容は以下の通り
 - 銀行の窓口業務(預貯金の対応)
 - 勤務時間: 8時半~5時半。残業はほとんどなく、また出張もない。土日は基本的に休み
 - 自宅は勤務する支店から車で15分程度
- 仕事に関する本人の希望
 - 仕事はいきがいの一つになっている。
 - 何かしていないと病気のことを考えてしまい、気分が落ち込んでしまう。
 - やつれてしまい顧客と直接接する業務はしたくない
 - 生命予後が厳しいことを頭では理解しているが、「なぜ私が・・・」という思いが強く、今の状況を受け入れることができない。ただし、できる限り最後まで社会と接点を持っていたい。

症例3

- 45歳男性、工場勤務（主任）、独身（70代の両親と同居）
- 平成〇年×月、不眠のためにかかりつけ医（内科）受診。診察で抑うつ症状が認められたため、心療内科の受診を勧められ、そこで「うつ病」と診断され、内服治療を開始する。ブロマゼパム（2）1T×3（毎食後）、パキシル（10）2T×1（夕食後）、エスタゾラム（5）錠 1T×1（就寝前）
- 上記処方での治療をしているが、一向に症状は改善しない。

症例3(続き1)

- 持病の高血圧の定期診察のためかかりつけ医を受診した際に、母親の介護に関する相談を受ける。以下、相談内容。
 - 数年前から認知症の症状が出始め、現在は要介護1で週に2回訪問介護によるサービスを受けている。日中は父親が介護を行っているが、介護疲れもあるのか母親に対する虐待行為が時に見られる。ケアマネに相談して、デイサービスを入れることで父親の介護負担を軽減することを試みたが、母親がデイサービスに行くことを嫌がり、またかえって問題行動が顕著になったために現在は行かせていない。

症例3(続き2)

- 食事、入浴、排せつなどADL介助は、日中は父親に任せているが、在宅時は自分がほとんど行っている。食事の準備も負担になっている。介護や通院補助のために有給等を使って休まなければならないことがここ数か月で増えてきた。
- いつまでこの状態が続くのか、将来の展望が抱けず、また職場にも迷惑をかけていることが、心理的に大きな負担になっている。ある程度貯金もあるので、仕事をやめて親の介護に専念したほうが良いのではないかと思うこともあるが、その後のことを考えると無理だという気持ちになる。いっそ、心中したほうが良いのではないかと思うこともある。

症例3(続き3)

- 現在の職務内容は以下の通り
 - 製造業(重電)の工場のラインの主任
 - 就業時間は日勤帯のみであるが、時に早朝から夜9時くらいまで作業が入ることがある(月に2、3回)
 - 監督業務が主体で、ラインで実際の作業をすることはあまりないが、トラブル時や新人の教育の際にはライン業務を行うこともある
- 仕事に関する本人の希望
 - 仕事は自分のいきがいである。
 - 介護費用を考えると、仕事は続けた方が良いと思うが、会社に迷惑はかけたくない。

実習手順

- 症例の検討
 - 記載されていない事項についても、臨床家の視点からこのようなものがありうるということを考えていただく。
 - 上記を総合的に踏まえたうえで、就業上の注意を考えていただく。
 - 禁止すべき作業
 - 働くことが可能になるための留意事項

平成27年度の主な活動

- 医師会を対象とした研修
 - 平成27年6月3日 葛飾区医師会 研修会
- 経営者・保険者・行政を対象としたセミナー
 - 協会けんぽ
 - 経団連
 - 財界・省庁若手勉強会

高齢者の「専門職」としての 経験と知を活かすために必要なこと

- 老化の予防
 - 老年医学の知見に基づく科学的予防対策の推進
- 老化に伴う機能低下を補う技術開発
 - 体力の低下を伴う作業ラインの見直し・ロボットスーツ・制御技術(自動運転を含む)など
 - 想起力・情報収集力の低下を人工知能で補うための技術開発

高齢者が働きやすい環境づくり

明るさ

ラインのスピード

モニターの
字の色・大きさ

工具



作業姿勢

労働生理学・人間工学・老年医学・老年社会学・心理学等の知見を活かした働き方のデザイン・リモデリング

まとめ

- 「働くこと」をサポートする医療という概念は徐々に受け入れられつつある
- しかしながら、まだ大きなムーブメントにはなれていない
- 事例の積み上げと「かかりつけ医の役割の一つ」という概念化の戦略が必要